地質標本館　おすすめ標本ストーリー

Geological Museum

フルートキャスト

宮崎県日南市猪崎の日南層群の砂岩層（古第三紀漸新世の地層）底面に見られるフルートキャスト．古流向は右下（正面）から左上（奥）で、標本の大きさは、幅約 40 cm× 奥行き約 50 cm× 高さ約 30 cm.（GSJ R19501）

第１展示室奥で「生きている化石」のジオラマの右隣にある岩石標本は、海底に堆積した砂が固まってできたものですが、堆積した底面が上を向くように、つまり上下をひっくり返した状態で展示されています。この砂岩の見かけの上面（つまり堆積時の底面）には、たくさんのこぶのような凸凹模様が見られます。このような模様をフルートキャストと呼びます。

フルートキャストとは、底痕と呼ばれる、堆積物の底面に残された痕跡の一つです。これは、砂や礫を運搬した水流の中の渦によって水底の泥質堆積物がえぐられてできたくぼみを、そこに運ばれてきた堆積物が埋めることにより形成されたものです。このため、くぼみを埋めた堆積物の底面を上にして見ると、盛り上がった高まりが平行に並んでいるのが観察できます。この高まりは、上流側が急で下流側が緩やかな斜面をなしています。これらの構造や形態は、その堆積物を堆積させた流れの方向の復元に用いられ、復元された流れの方向を古流向と呼びます。いろいろな地点での古流向を広範囲に調べることにより、堆積盆地の広がりや堆積物の供給源などを知る手がかりを得ることが可能になります。

底痕にはフルートキャスト以外にも、生物が動き回ったあとにできる生痕や堆積物の荷重による荷重痕などがあります。これらは、野外調査の時に、地層の上下判定にも用いられます。

（地質標本館室　下川浩一）